

令和5年度
再犯防止に関する意識調査
報告書

令和6年1月

東京都 生活文化スポーツ局 都民安全推進部 都民安全課

調査概要

1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 本報告書を読む際の注意事項.....	1

対象者属性

1 居住地	2
2 性別・年代	3
3 職業	3

調査結果

1 都内の刑法犯検挙人員に対する意識.....	4
2 再犯防止の推進	8
3 都政情報の入手経路	18
4 再犯防止のための取組と支援.....	19
5 支援機関の認知状況	22
6 更生保護(保護司と協力雇用主).....	29

1 調査の目的

再犯防止に関する広報・啓発活動を充実・強化するために、都民の再犯防止に関する意識調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査方法： インターネットモニターを対象としたWebアンケート調査

(2) 調査対象者： 東京都民/男女20～79歳

(3) 有効回収数： n=1,000 ※人口分布に合わせて回収

		有効回収	比率	人口 (R5. 1. 1 現在)	比率
全 体		1,000	100%	13,841,665	100%
性別	男性	500	50%	6,797,186	49%
	女性	500	50%	7,044,479	51%
年代別	20代	160	16%	1,755,278	16%
	30代	180	18%	1,884,539	18%
	40代	200	20%	2,133,393	20%
	50代	200	20%	2,084,997	20%
	60代	130	13%	1,386,774	13%
	70代	130	13%	1,404,390	13%
居住 地域別	区部	700	70%	9,569,211	69%
	市町村部	300	30%	4,192,930	30%

(4) 調査時期： 令和5年11月10日～11月13日

3 本報告書を読む際の注意事項

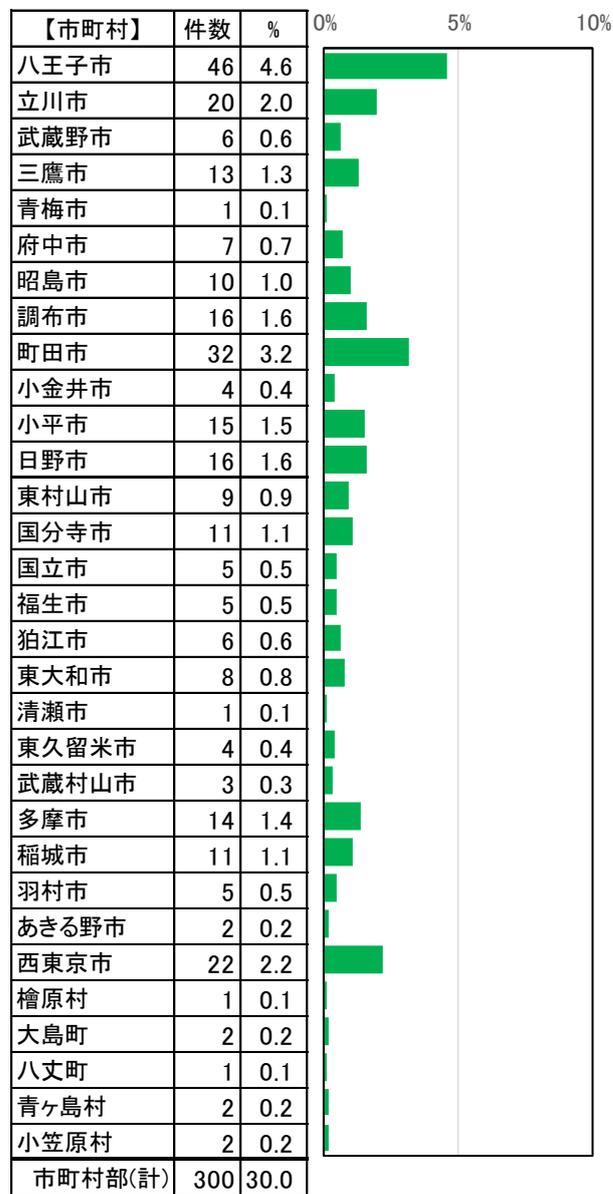
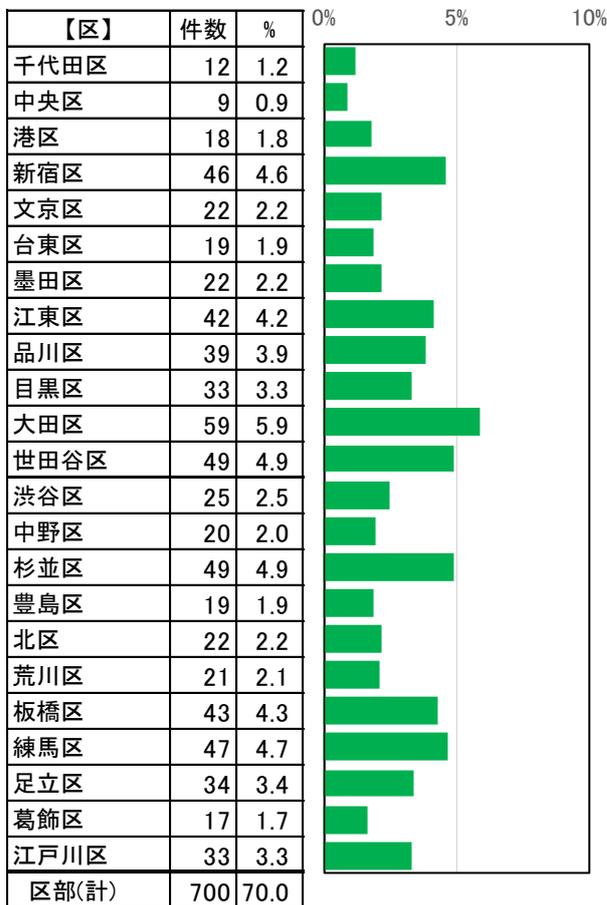
- (1) 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するのかを示す比率算出の基数となります。
- (2) 回答率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の質問では、合計が100%を超える場合があります。
- (4) グラフの一部では回答数0(0.0%)を省略しているものがあります。また本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (5) クロス集計による分析に際して、nが30未満の場合は参考として記載しています。

対象者属性

1 居住地

区部(計)と市町村部(計)の比率は、東京都の地域別人口を参考に割付を行っている。

n=1,000



2 性別・年代

性別、年代の比率は、東京都の地域別人口を参考に割付を行っている。

S2. あなたの年齢をお答えください。

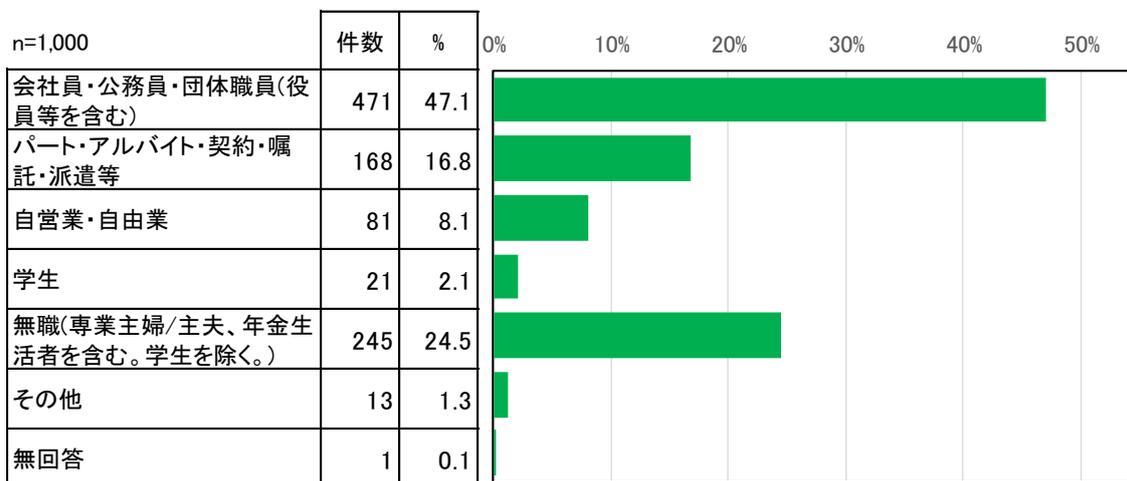
S3. あなたの性別をお答えください。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	80	90	100	100	65	65	500
女性	80	90	100	100	65	65	500
合計	160	180	200	200	130	130	1000

3 職業

職業では、「会社員・公務員・団体職員（役員などを含む）」が47.1%と5割弱に達する。次に「無職（専業主婦/主夫、年金生活者を含む。学生を除く。）」24.5%、「パート・アルバイト・契約・嘱託・派遣等」16.8%と続く。

S4. あなたの職業をお答えください。



1 都内の刑法犯検挙人員に対する意識

Q1 都内の刑法犯検挙人員は、近年、どのような傾向にあると思いますか。

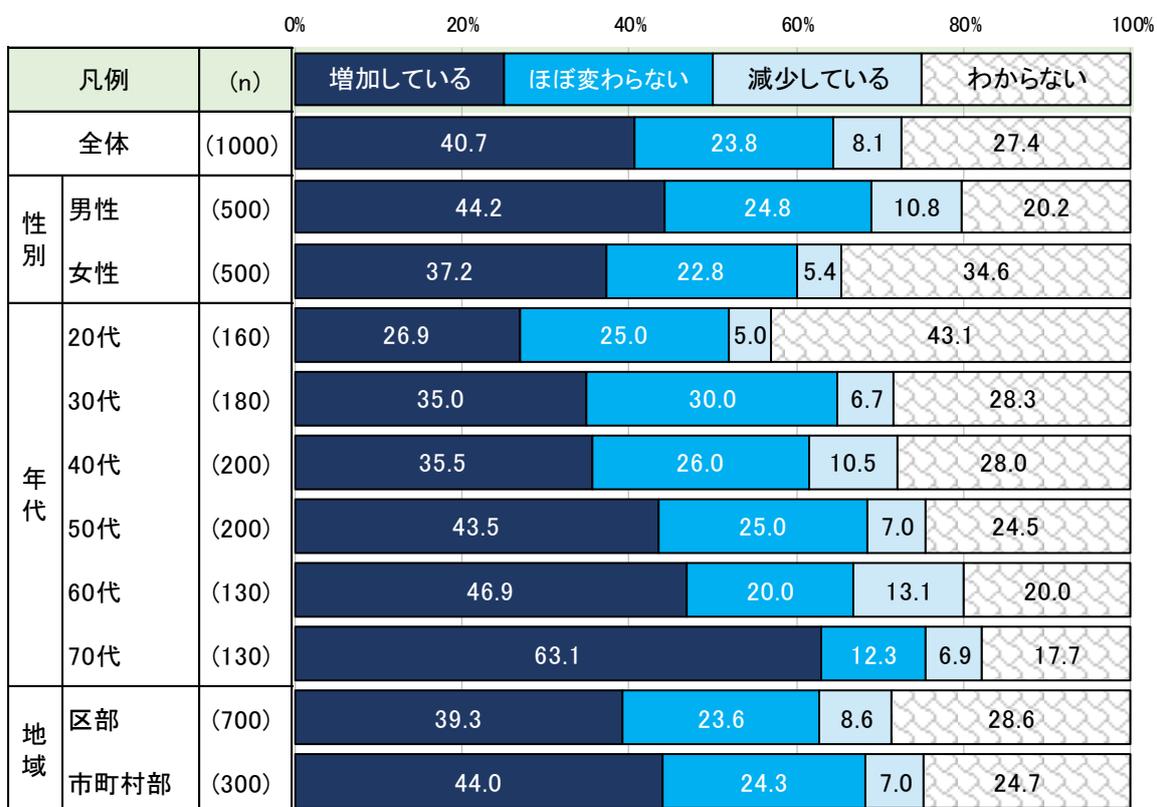
全体では「増加している」と感じている人が40.7%と4割に達する。

一方、「減少している」は8.1%と1割にとどかない。

性別で見ると、男性では「増加している」が44.2%、女性では37.2%と男性の方がやや高い。

逆に「わからない」は女性の方が男性より高い。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「増加している」も高くなる傾向があり、20代では3割にとどかないが70代では6割を超える。



調査結果

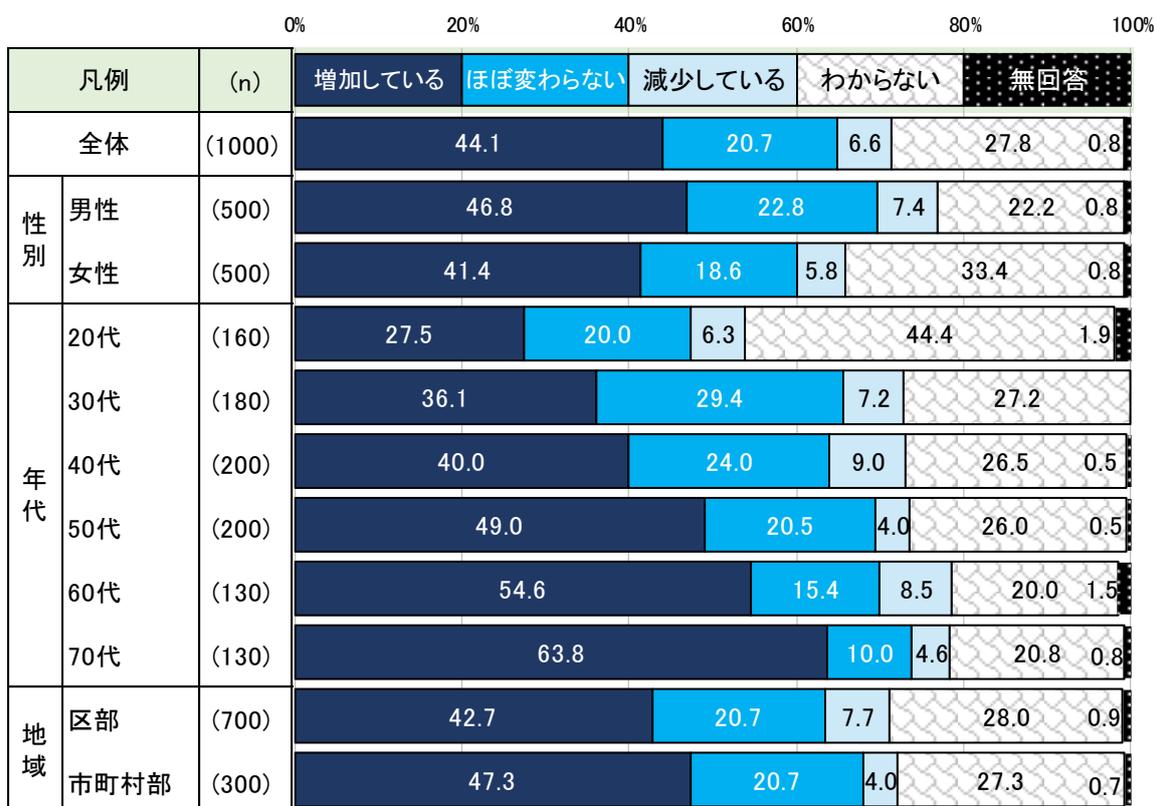
Q2 都内の刑法犯検挙人員について、特に初犯者は、近年、どのような傾向にあると思いますか。

全体では「増加している」と感じている人が44.1%と4割を超える。

一方、「減少している」は6.6%と1割にとどかない。

性別で見ると、男女とも「増加している」が4割を超え、最も高い。女性の方が男性より「わからない」が高い。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「増加している」も高くなる傾向があり、20代では3割にとどかないが70代では6割を超える。



調査結果

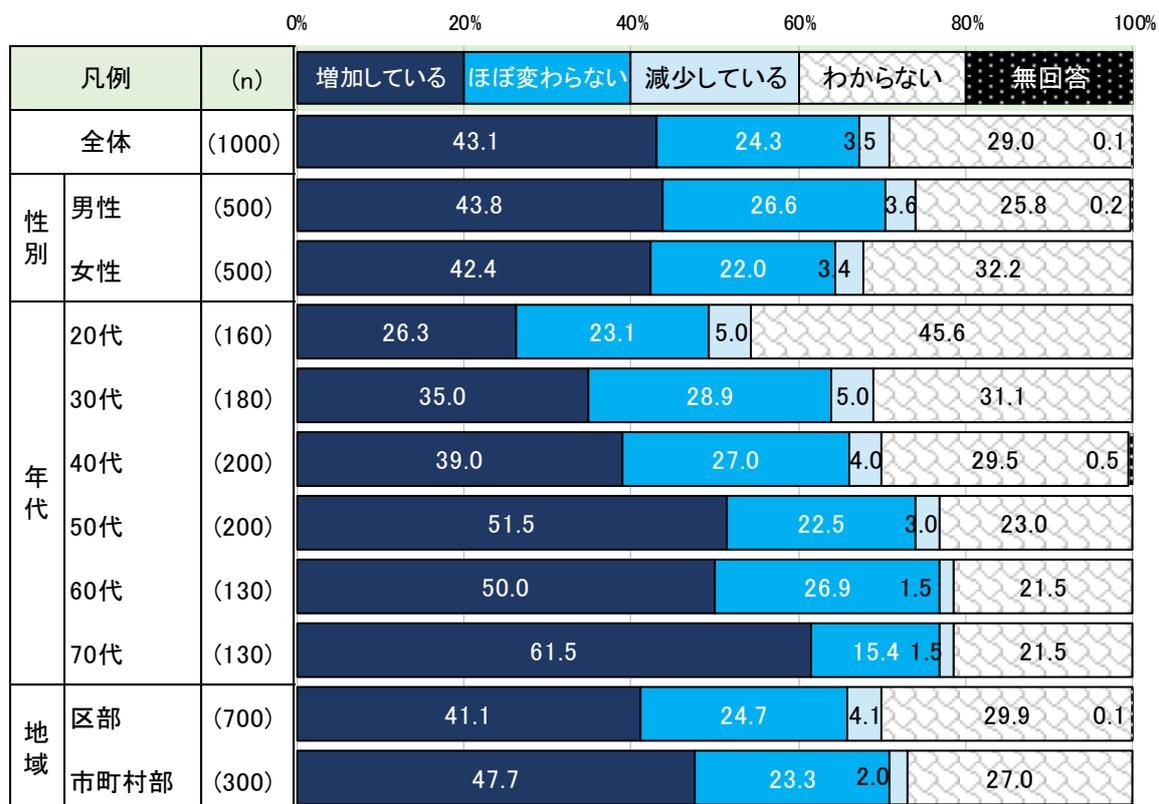
Q3 都内の刑法犯検挙人員について、特に再犯者は、近年、どのような傾向にあると思いますか。

全体では「増加している」と感じている人が43.1%と4割を超える。

一方、「減少している」は3.5%と1割にとどかない。

性別で見ると、男女とも「増加している」が4割を超え、最も高い。女性の方が男性より「わからない」がやや高い。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「増加している」も高くなる傾向があり、20代では3割にとどかないが70代では6割を超える。



調査結果

Q4 都内刑法犯検挙人員に占める再犯者の割合は、近年、どの位だと思いますか。

全体では「わからない」が36.0%で最も高い。正解である「約5割」は24.3%と低い。

性別で見ると、女性の方が男性より「わからない」が高い。

年代別では、70代は「約5割」が3割を超え、他の年代より高い。20代では「わからない」が5割を超える。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%
			4割以下	約5割	6割以上	わからない	無回答	
全体		(1000)	12.5	24.3	26.8	36.0	0.4	
性別	男性	(500)	13.2	25.2	31.6	30.0		
	女性	(500)	11.8	23.4	22.0	42.0	0.8	
年代	20代	(160)	8.1	19.4	20.6	51.9		
	30代	(180)	13.9	25.6	25.0	35.6		
	40代	(200)	14.5	23.0	26.5	35.5	0.5	
	50代	(200)	12.5	22.5	33.5	31.0	0.5	
	60代	(130)	6.9	25.4	33.1	33.8	0.8	
	70代	(130)	18.5	32.3	20.8	27.7	0.8	
地域	区部	(700)	11.9	24.3	27.3	36.1	0.4	
	市町村部	(300)	14.0	24.3	25.7	35.7	0.3	

調査結果

2 再犯防止の推進

Q5 再犯防止推進に向けた更なる取組が求められていると思いますか。

全体では「思う」30.9%、「どちらかといえば思う」30.8%で、合計した「思う(計)」は61.7%と6割を超える。

男女で「思う(計)」に差はないが、「分からない」は女性の方がやや高い。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「思う(計)」も高くなる傾向があり、20代では4割強だが70代では7割を超える。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	思う(計)
			思う	どちらかとい えれば思う	どちらかとい えれば思わない	思わない	分からない	無回答	
全体		(1000)	30.9	30.8	10.2	5.2	22.8	0.1	61.7
性別	男性	(500)	30.4	32.4	12.8	5.2	19.2		62.8
	女性	(500)	31.4	29.2	7.6	5.2	26.4	0.2	60.6
年代	20代	(160)	19.4	24.4	9.4	6.3	40.0	0.6	43.8
	30代	(180)	24.4	36.7	10.0	6.7	22.2		61.1
	40代	(200)	33.0	28.5	11.0	5.0	22.5		61.5
	50代	(200)	36.5	25.5	10.5	6.0	21.5		62.0
	60代	(130)	30.0	41.5	10.8	4.6	13.1		71.5
	70代	(130)	43.1	31.5	9.2	1.5	14.6		74.6
地域	区部	(700)	29.4	31.7	10.7	5.0	23.0	0.1	61.1
	市町村部	(300)	34.3	28.7	9.0	5.7	22.3		63.0

調査結果

Q6 あなたは、再犯防止推進に向けた更なる取組が求められていることをどこで知りましたか。下記からあてはまるものをすべてお選びください。(回答はいくつでも)

全体では、再犯防止推進に向けた更なる取組が求められていることを「知らなかった」が64.4%で6割を超える。即ち、「知っている」という認知率は3割強にとどまる。
 認知経路では「テレビ(東京都からのお知らせ)」11.6%、「東京都のHP(インターネット広告を含む)」9.6%、「東京都の啓発物(ポスター、広報紙等)」9.3%が1割前後でトップ3である。
 年代別では、70代で「テレビ(東京都からのお知らせ)」が2割を超え、他の年代より高い。



		(n)	11.6	9.6	9.3	7.0	4.8	4.4	3.1	2.9	2.5	2.5	2.3	2.0	2.0	1.7	64.4	0.4
全体		(1000)	11.6	9.6	9.3	7.0	4.8	4.4	3.1	2.9	2.5	2.5	2.3	2.0	2.0	1.7	64.4	0.4
性別	男性	(500)	10.8	10.8	9.8	9.0	5.6	4.4	4.0	2.6	1.8	2.2	2.0	2.0	2.0	1.4	62.0	0.4
	女性	(500)	12.4	8.4	8.8	5.0	4.0	4.4	2.2	3.2	3.2	2.8	2.6	2.0	2.0	2.0	66.8	0.4
年代	20代	(160)	4.4	15.0	10.0	3.8	7.5	1.9	3.8	6.9	3.8	4.4	1.9	2.5	3.8	0.6	66.9	-
	30代	(180)	10.0	13.3	13.3	5.0	12.8	10.6	6.1	5.0	4.4	4.4	3.3	5.6	3.3	2.2	58.9	-
	40代	(200)	6.5	7.0	7.0	3.5	2.5	6.0	2.5	3.5	2.0	2.5	1.0	1.0	1.5	1.0	70.5	0.5
	50代	(200)	12.5	8.5	10.5	3.5	2.5	2.5	3.0	0.5	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	69.0	1.0
	60代	(130)	16.9	6.9	6.2	10.0	0.8	2.3	1.5	0.8	0.8	0.8	1.5	-	-	1.5	60.8	0.8
	70代	(130)	23.8	6.2	7.7	21.5	1.5	1.5	0.8	-	0.8	-	3.1	-	-	3.1	56.2	-
地域	区部	(700)	11.4	10.4	10.1	7.1	5.0	3.7	3.7	3.3	2.4	2.4	3.0	2.0	2.3	2.0	63.3	0.4
	市町村部	(300)	12.0	7.7	7.3	6.7	4.3	6.0	1.7	2.0	2.7	2.7	0.7	2.0	1.3	1.0	67.0	0.3

※全体の高い順

「その他」の内容では、「なんとなく」も含め全員が東京都以外のメディアを回答している。

その他の内容	(n=17)
なんとなく	6 (件)
テレビ番組/ニュース	4
ネット/ネットニュース	4
友人知人から	2
ラジオ	1

調査結果

Q7 東京都独自の再犯の防止等の推進に関する取組はどの程度必要だと思いますか。

全体では「必要である」47.2%、「どちらかと言えば必要である」31.8%で、合計した「必要である(計)」は79.0%とほぼ8割に達する。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「必要である」も高くなる傾向があり、20代では3割強だが70代では6割を超える。「必要である(計)」も同様の傾向で、20代では6割強だが70代では9割半ばに達する。

凡例		(n)	必要である	どちらかと言えば必要である	どちらかと言えば必要でない	必要でない	わからない	無回答	必要である(計)
全体		(1000)	47.2	31.8	3.4	2.0	15.3	0.3	79.0
性別	男性	(500)	45.6	31.2	5.2	1.8	15.8	0.4	76.8
	女性	(500)	48.8	32.4	1.6	2.2	14.8	0.2	81.2
年代	20代	(160)	34.4	26.9	6.3	2.5	30.0	0.3	61.3
	30代	(180)	39.4	35.0	7.8	1.1	16.7	0.3	74.4
	40代	(200)	46.0	29.5	2.0	4.5	18.0	0.3	75.5
	50代	(200)	53.0	29.5	2.5	2.5	12.5	0.3	82.5
	60代	(130)	50.0	40.8	0.8	6.9	0.3	1.5	90.8
	70代	(130)	63.8	31.5	3.8	0.3	0.3	0.8	95.4
地域	区部	(700)	46.7	32.9	3.0	1.9	15.3	0.3	79.6
	市町村部	(300)	48.3	29.3	4.3	2.3	15.3	0.3	77.7

調査結果

Q8 平成28年12月に、再犯の防止等に関する施策に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、再犯の防止等に関する施策の基本となる事項を定めた「再犯の防止等の推進に関する法律(再犯防止推進法)」が施行され、国は再犯防止を推進していることを知っていますか。

全体では「知っている」11.5%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」36.3%で、合計した「認知(計)」は47.8%と5割弱に達する。

年代別では、20代の「認知(計)」が4割弱とやや低く、30代では6割弱とやや高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	11.5	36.3	51.6	0.6			47.8
性別	男性	(500)	14.2	35.6	49.8	0.4			49.8
	女性	(500)	8.8	37.0	53.4	0.8			45.8
年代	20代	(160)	15.0	23.1	61.3	0.6			38.1
	30代	(180)	13.3	43.9	42.2	0.6			57.2
	40代	(200)	13.0	29.5	56.5	1.0			42.5
	50代	(200)	7.5	40.0	52.0	0.5			47.5
	60代	(130)	13.8	37.7	48.5				51.5
	70代	(130)	6.2	45.4	47.7	0.8			51.5
地域	区部	(700)	12.6	34.7	52.1	0.6			47.3
	市町村部	(300)	9.0	40.0	50.3	0.7			49.0

調査結果

Q9 平成 28 年 12 月に施行された「再犯防止推進法」により、地方公共団体には地方再犯防止推進計画を定める努力義務が課されました。これを受け、都は、令和元年7月に「東京都再犯防止推進計画」を策定したことを知っていますか。

全体では「知っている」7.3%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」22.2%で、合計した「認知(計)」は29.5%とほぼ3割である。

年代別では、30代の「認知(計)」が4割弱とやや他の年代に比べてやや高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	7.3	22.2	69.1	1.4			29.5
性別	男性	(500)	8.6	21.2	68.6	1.6			29.8
	女性	(500)	6.0	23.2	69.6	1.2			29.2
年代	20代	(160)	8.8	18.8	70.6	1.9			27.5
	30代	(180)	11.1	26.7	60.0	2.2			37.8
	40代	(200)	8.5	19.5	71.0	1.0			28.0
	50代	(200)	2.0	24.5	73.0	0.5			26.5
	60代	(130)	8.5	23.1	66.2	2.3			31.5
	70代	(130)	5.4	20.0	73.8	0.8			25.4
地域	区部	(700)	8.1	21.3	69.0	1.6			29.4
	市町村部	(300)	5.3	24.3	69.3	1.0			29.7

調査結果

Q10 新たな被害者を生まない、安全・安心な社会を実現するには、犯罪をした人などを再び受け入れて、立ち直りを支えていくことが重要であると思いますか。

全体では「思う」26.9%、「どちらかといえば思う」36.6%で、合計した「思う(計)」は63.5%と6割を超える。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「思う」も高くなる傾向があり、20代ではほぼ2割だが70代では5割弱に達する。「思う(計)」も同様の傾向で、20代では5割弱だが70代ではちょうど9割に達する。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	思う(計)
			思う	どちらかとい えは思う	どちらかとい えは思わない	思わない	分からない	無回答	
全体		(1000)	26.9	36.6	9.7	6.9	19.5		0.4 63.5
性別	男性	(500)	24.8	36.2	11.4	7.6	19.4		0.6 61.0
	女性	(500)	29.0	37.0	8.0	6.2	19.6		0.2 66.0
年代	20代	(160)	19.4	27.5	11.9	8.1	31.3		1.9 46.9
	30代	(180)	17.2	39.4	16.1	6.7	20.6		56.7
	40代	(200)	22.5	36.5	8.0	9.0	23.5		0.5 59.0
	50代	(200)	28.5	34.0	11.5	10.0	16.0		62.5
	60代	(130)	33.1	42.3	5.4	3.1	16.2		75.4
	70代	(130)	47.7	42.3	2.3	1.5	6.2		90.0
地域	区部	(700)	26.7	37.0	9.6	6.6	19.7		0.4 63.7
	市町村部	(300)	27.3	35.7	10.0	7.7	19.0		0.3 63.0

調査結果

Q11 刑務所や少年院等の矯正施設を出所しても、「住むところがない」「仕事がない」「高齢である」「障害がある」「薬物依存がある」「孤独、相談相手がいない」といった“生きづらさ”がハードルとなり、これを乗り越えられずに犯罪や非行を繰り返してしまう人はどの位いると思いますか。

全体では「多い」30.2%、「どちらかといえば多い」37.1%で、合計した「多い(計)」は67.3%と7割弱に達する。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「多い(計)」も高くなる傾向があり、20代ではちょうど5割だが70代では8割半ばに達する。

地域別では、区部の方が市町村部より「多い」がやや高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	思う(計)
			思う	どちらかとい えは思う	どちらかとい えは思わない	思わない	分からない	無回答	
全体		(1000)	30.2	37.1	8.7	2.4	21.5		0.1 67.3
性別	男性	(500)	29.2	35.8	9.8	2.4	22.8		65.0
	女性	(500)	31.2	38.4	7.6	2.4	20.2		0.2 69.6
年代	20代	(160)	25.6	24.4	13.8	1.9	33.8		0.6 50.0
	30代	(180)	21.1	43.3	13.3	1.1	21.1		64.4
	40代	(200)	33.5	33.0	6.5	4.0	23.0		66.5
	50代	(200)	32.0	34.0	7.5	4.5	22.0		66.0
	60代	(130)	30.8	46.9	6.2	0.8	15.4		77.7
	70代	(130)	40.0	45.4	3.8	0.8	10.0		85.4
地域	区部	(700)	32.3	35.9	9.6	1.7	20.4		0.1 68.1
	市町村部	(300)	25.3	40.0	6.7	4.0	24.0		65.3

調査結果

Q12 再犯を防ぐためには、本人の努力はもちろん重要ですが、それだけではなく、“生きづらさ”を抱えた人に対して、地域社会や関係機関が連携し、就労や住居の確保、保健医療・福祉サービスの利用につなぐなど、周囲からの支援が必要であると思いますか。

全体では「思う」28.5%、「どちらかといえば思う」38.2%で、合計した「思う(計)」は66.7%と7割弱に達する。

性別では、女性の「思う(計)」は7割を超え、男性より高い。

年代別では、年齢が高くなるにつれ「思う」も高くなる傾向があり、20代では2割弱だが70代ではちょうど5割に達する。「思う(計)」も同様の傾向で、20代ではほぼ5割だが70代では9割を超える。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	思う(計)
			思う	どちらかとい えば思う	どちらかとい えば思わない	思わない	分からない	無回答	
全体		(1000)	28.5	38.2		8.7	4.8	19.2	0.6 66.7
性別	男性	(500)	25.8	36.2		12.6	5.2	19.6	0.6 62.0
	女性	(500)	31.2	40.2		4.8	4.4	18.8	0.6 71.4
年代	20代	(160)	18.8	30.6	11.9	6.3		31.9	0.6 49.4
	30代	(180)	17.8	40.0		15.6	4.4	21.7	0.6 57.8
	40代	(200)	25.0	37.5		6.5	7.0	24.0	62.5
	50代	(200)	32.5	32.5		9.0	7.5	17.5	1.0 65.0
	60代	(130)	33.1	50.8		3.1	0.8	10.8	1.5 83.8
	70代	(130)	50.0	42.3		3.8	3.8		92.3
地域	区部	(700)	29.4	36.9		8.3	4.9	20.1	0.4 66.3
	市町村部	(300)	26.3	41.3		9.7	4.7	17.0	1.0 67.7

調査結果

Q13 再犯を防ぐためには、本人の努力はもちろん重要ですが、それだけではなく、“生きづらさ”を抱えた人に対して、地域社会や関係機関が連携し、就労や住居の確保、保健医療・福祉サービスの利用につなぐなど、周囲からの支援が必要であることをどこで知りましたか。

全体では、周囲からの支援が必要であることを「知らなかった」が60.8%で6割に達する。即ち、「知っている」という認知率はほぼ4割となる。

認知経路では「テレビ(東京都からのお知らせ)」12.7%、「東京都のHP(インターネット広告を含む)」9.9%、「東京都の啓発物(ポスター、広報紙等)」9.5%が1割前後でトップ3である。

年代別では、70代で「テレビ(東京都からのお知らせ)」「新聞記事(東京都の記事)」が2割を超え、他の年代より高い。



		(n)	お知らせ (東京都からのお知らせ)	東京都のHP (インターネット広告を含む)	東京都の啓発物 (ポスター、広報紙等)	新聞記事 (東京都の記事)	(白書、統計等)	東京都の刊行物 (展示会等)	東京都の各種イベント	東京都のLINE	(旧Twitter)	東京都の動画	YouTube等	ラジオ (東京都からのお知らせ)	Instagram	東京都のFacebook	東京都の電車内広告	その他	知らなかった	無回答
全体		(1000)	12.7	9.9	9.5	7.5	5.2	3.6	3.3	3.1	2.9	2.9	2.7	2.2	2.2	2.2	3.7	60.8	0.6	
性別	男性	(500)	10.0	11.2	9.4	9.8	5.6	3.8	3.6	2.4	3.0	3.8	3.0	1.6	2.0	3.4	60.6	0.8		
	女性	(500)	15.4	8.6	9.6	5.2	4.8	3.4	3.0	3.8	2.8	2.0	2.4	2.8	2.4	4.0	61.0	0.4		
年代	20代	(160)	5.6	9.4	10.6	3.1	6.3	4.4	3.1	4.4	3.1	2.5	3.8	2.5	3.1	4.4	65.0	-		
	30代	(180)	10.6	13.3	13.9	5.0	12.8	6.1	7.2	5.0	5.6	3.9	3.9	6.7	3.3	2.2	60.0	0.6		
	40代	(200)	9.5	12.0	9.0	4.0	3.0	3.0	3.5	2.5	1.5	2.0	4.0	0.5	2.5	1.5	63.0	0.5		
	50代	(200)	14.5	6.5	7.0	6.0	3.5	2.5	2.0	3.0	2.0	3.5	2.0	1.0	1.5	5.0	64.5	1.0		
	60代	(130)	16.9	10.0	7.7	11.5	2.3	2.3	3.1	3.1	3.1	2.3	1.5	2.3	1.5	4.6	60.8	-		
	70代	(130)	22.3	7.7	8.5	20.0	2.3	3.1	-	-	2.3	3.1	-	-	0.8	5.4	47.7	1.5		
地域	区部	(700)	12.1	10.3	9.9	7.7	5.4	3.9	3.9	3.4	2.9	3.4	2.7	2.1	2.0	4.1	61.0	0.7		
	市町村部	(300)	14.0	9.0	8.7	7.0	4.7	3.0	2.0	2.3	3.0	1.7	2.7	2.3	2.7	2.7	60.3	0.3		

※全体の高い順

「その他」の内容では、「テレビ番組/ニュース」と「一般常識/なんとなく」が11件で最も多い。「その他」も含め、全員が東京都以外のメディアを回答している。

その他の内容	(n=37)
テレビ番組/ニュース	11 (件)
一般常識/なんとなく	11
ネット/ネットニュース	5
書籍/雑誌/本/マンガ	5
ラジオ	2
授業	2
その他	2

4 再犯防止のための取組と支援

Q16 あなたは、犯罪をした人や非行のある少年(以下「犯罪をした人など」といいます。)の立ち直りに協力したいと思いますか。

全体では「思う」10.2%、「どちらかといえば思う」24.6%で、合計した「思う(計)」は34.8%である。「思わない(計)」31.7%、「分からない」33.3%と意見は分かれている。

年代別では、20代で「分からない」がほぼ4割、70代では「思う(計)」が4割を超え、他の年代に比べて高い。

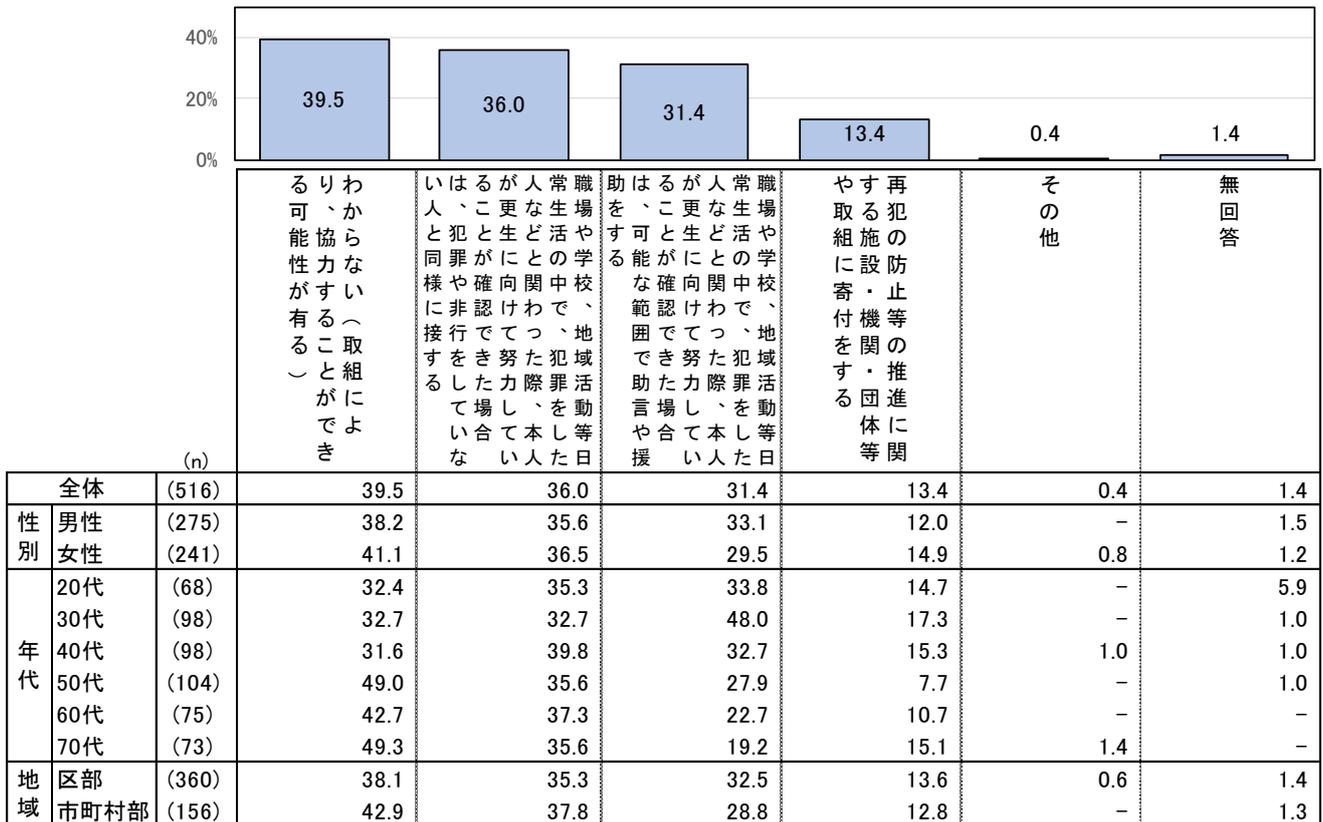
凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	思う(計)	思わない(計)
			思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	分からない	無回答		
全体		(1000)	10.2	24.6	16.8	14.9	33.3		0.2 34.8	31.7
性別	男性	(500)	10.8	26.0	18.2	15.0	29.8		0.2 36.8	33.2
	女性	(500)	9.6	23.2	15.4	14.8	36.8		0.2 32.8	30.2
年代	20代	(160)	10.6	21.9	10.0	16.3	40.6		0.6 32.5	26.3
	30代	(180)	9.4	21.7	23.3	12.2	32.8		0.6 31.1	35.5
	40代	(200)	9.0	24.0	16.0	18.0	33.0		33.0	34.0
	50代	(200)	11.5	25.0	15.5	19.0	29.0		36.5	34.5
	60代	(130)	9.2	25.4	23.1	10.8	31.5		34.6	33.9
	70代	(130)	11.5	31.5	13.1	10.0	33.8		43.1	23.1
地域	区部	(700)	10.7	23.7	17.0	15.3	33.1		0.1 34.4	32.3
	市町村部	(300)	9.0	26.7	16.3	14.0	33.7		0.3 35.7	30.3

調査結果

Q17 再犯の防止等の推進について、あなたが実際に協力することができる取組はありますか。下記からあてはまるものをすべてお選びください。(回答はいくつでも)

再犯防止の立ち直りの取組に協力できそうな人(Q16で1, 2, 3に回答)全体では、「わからない(取組により、協力することができる可能性が有る)」が39.5%で最も高く、「職場や学校、地域活動等日常生活の中で、犯罪をした人などに関わった際、本人が更生に向けて努力していることが確認できた場合は、犯罪や非行をしていない人と同様に接する」36.0%、「職場や学校、地域活動等日常生活の中で、犯罪をした人などに関わった際、本人が更生に向けて努力していることが確認できた場合は、可能な範囲で助言や援助をする」31.4%までが3割を超える。

年代別では、40代以下では「わからない」が3割強程度にとどまり、「職場や学校、地域活動等日常生活の中で、犯罪をした人などに関わった際、本人が更生に向けて努力していることが確認できた場合は、可能な範囲で助言や援助をする」が50代以上より高い。特に30代では5割弱に達している。



※全体の高い順

「その他」の内容は、以下の通り。

その他の内容	(n=2)
選挙のとき、直接支援に積極的な候補者に投票する	1 (件)
年なので無理	1

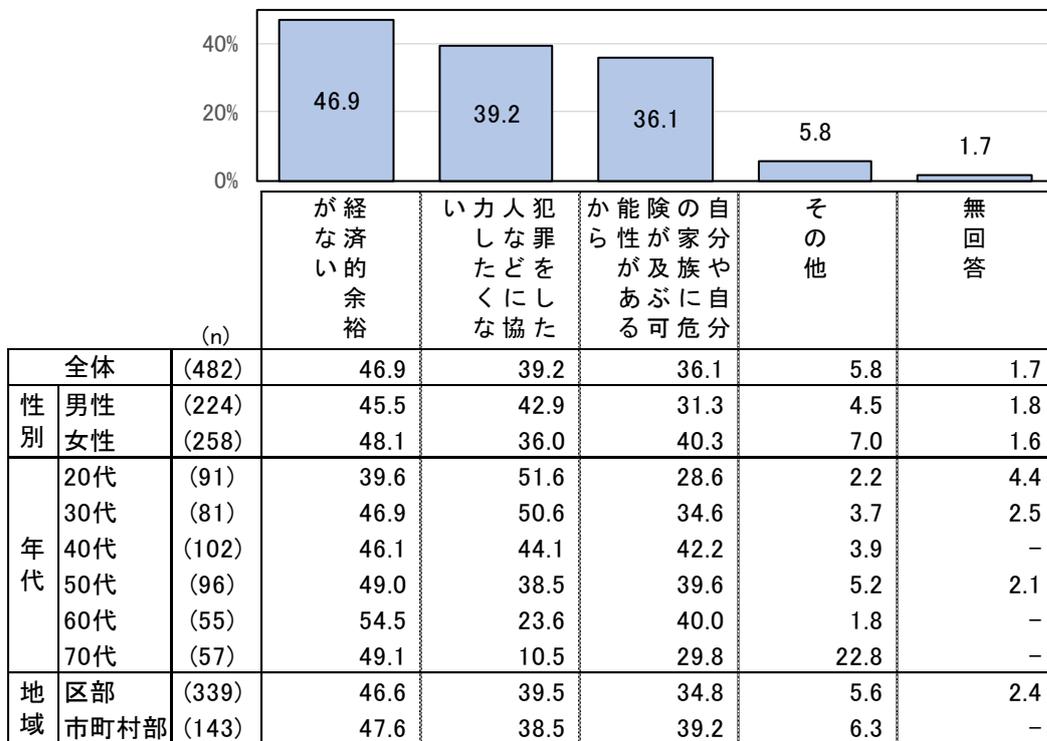
調査結果

Q18 再犯の防止等の推進について、あなたが実際に協力することができる取組がない理由は何ですか。下記からあてはまるものをすべてお選びください。(回答はいくつでも)

再犯防止立ち直りの取組に協力意向がない人(Q16で4, 5に回答)全体では、「経済的余裕がない」が46.9%で5割弱に達する。「犯罪をした人などに協力したくない」39.2%、「自分や自分の家族に危険が及ぶ可能性があるから」36.1%までが3割を超える。

性別では、男性は「犯罪をした人などに協力したくない」が女性より高く、女性では「自分や自分の家族に危険が及ぶ可能性があるから」が男性より高い。

年代別では、若いほど「犯罪をした人などに協力したくない」が高く、20～30代では5割に達する。60代では「経済的余裕がない」が5割を超える。



※全体の高い順

「その他」の内容では、「わからない/なんとなく」7件、「高年齢だから/健康でないから」5件が多い。

その他の内容	(n=27)
わからない/なんとなく	7 (件)
高年齢だから/健康でないから	5
余裕がない	4
専門家・公的機関がやること/自分ではできない	3
犯罪に巻き込まれそう	2
その他	7

5 支援機関の認知状況

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－保護司－

『保護司』を「知っている」26.7%、「聞いたことがあるが内容は知らない」38.3%で合計した「認知(計)」は65.0%と6割を超える。

性別では、女性の方が男性より「知っている」がやや高い。

年代別では、年齢が高いほど、「知っている」も高くなり、70代では5割弱に達する。

「認知(計)」も同様で、年齢が高いほど高くなり、70代では9割弱に達する。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	26.7	38.3	33.6	1.4			65.0
性別	男性	(500)	23.6	38.2	36.6	1.6			61.8
	女性	(500)	29.8	38.4	30.6	1.2			68.2
年代	20代	(160)	11.9	28.1	55.6	4.4			40.0
	30代	(180)	21.7	35.0	41.1	2.2			56.7
	40代	(200)	22.0	34.0	42.5	1.5			56.0
	50代	(200)	30.5	44.0	25.5				74.5
	60代	(130)	32.3	50.8	16.9				83.1
	70代	(130)	47.7	40.8	11.5				88.5
地域	区部	(700)	26.3	36.7	35.3	1.7			63.0
	市町村部	(300)	27.7	42.0	29.7	0.7			69.7

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－更生保護女性会－

『更生保護女性会』を「知っている」4.8%、「聞いたことがあるが内容は知らない」12.8%で合計した「認知(計)」は17.6%と2割にとどかない。

年代別では、30代の「認知(計)」は2割を超え、他の年代より高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	4.8	12.8	79.8	2.6			17.6
性別	男性	(500)	5.0	12.6	79.2	3.2			17.6
	女性	(500)	4.6	13.0	80.4	2.0			17.6
年代	20代	(160)	3.1	15.0	75.6	6.3			18.1
	30代	(180)	10.0	15.6	71.1	3.3			25.6
	40代	(200)	5.5	7.0	84.0	3.5			12.5
	50代	(200)	2.0	12.0	85.0	1.0			14.0
	60代	(130)	2.3	16.2	80.8	0.8			18.5
	70代	(130)	5.4	13.1	81.5				18.5
地域	区部	(700)	5.4	12.1	79.4	3.0			17.6
	市町村部	(300)	3.3	14.3	80.7	1.7			17.7

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－BBS会－

『BBS会』を「知っている」2.7%、「聞いたことがあるが内容は知らない」8.2%で合計した「認知(計)」は10.9%と1割程度にとどまる。

性別では、男性の方が女性より「認知(計)」がやや高い。

年代別では、40代以下の方が50代以上より「認知(計)」も高く、特に30代では2割を超える。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	2.7	8.2	86.2	2.9		10.9	
性別	男性	(500)	3.2	10.4	83.2	3.2		13.6	
	女性	(500)	2.2	6.0	89.2	2.6		8.2	
年代	20代	(160)	3.1	11.3	79.4	6.3		14.4	
	30代	(180)	5.0	18.3	72.2	4.4		23.3	
	40代	(200)	3.5	7.0	86.5	3.0		10.5	
	50代	(200)	1.0	2.5	96.0	0.5		3.5	
	60代	(130)	2.3	4.6	91.5	1.5		6.9	
	70代	(130)	0.8	4.6	93.1	1.5		5.4	
地域	区部	(700)	3.1	7.4	86.1	3.3		10.6	
	市町村部	(300)	1.7	10.0	86.3	2.0		11.7	

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－協力雇用主－

『協力雇用主』を「知っている」8.7%、「聞いたことがあるが内容は知らない」17.6%で合計した「認知(計)」は26.3%である。

年代別では、70代で「認知(計)」は4割弱に達し、他の年代より高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	8.7	17.6	70.8	2.9			26.3
性別	男性	(500)	8.0	20.6	67.6	3.8			28.6
	女性	(500)	9.4	14.6	74.0	2.0			24.0
年代	20代	(160)	5.0	11.3	77.5	6.3			16.3
	30代	(180)	9.4	18.9	68.3	3.3			28.3
	40代	(200)	8.5	14.5	73.5	3.5			23.0
	50代	(200)	9.0	17.5	72.5	1.0			26.5
	60代	(130)	7.7	22.3	68.5	1.5			30.0
	70代	(130)	13.1	23.8	61.5	1.5			36.9
地域	区部	(700)	8.6	16.9	71.4	3.1			25.4
	市町村部	(300)	9.0	19.3	69.3	2.3			28.3

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－更生保護施設－

『更生保護施設』を「知っている」18.3%、「聞いたことがあるが内容は知らない」41.7%で合計した「認知(計)」は60.0%とちょうど6割に達する。

性別では、女性の方が男性より「認知(計)」がやや高い。

年代別では、年齢が高いほど、「認知(計)」も高くなり、60代以上では8割弱に達する。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	18.3	41.7	37.4	2.6			60.0
性別	男性	(500)	16.4	40.2	40.2	3.2			56.6
	女性	(500)	20.2	43.2	34.6	2.0			63.4
年代	20代	(160)	11.9	28.1	53.1	6.9			40.0
	30代	(180)	17.2	36.1	43.3	3.3			53.3
	40代	(200)	19.0	34.5	43.5	3.0			53.5
	50代	(200)	18.0	48.0	33.5	0.5			66.0
	60代	(130)	18.5	60.0	20.0	1.5			78.5
	70代	(130)	26.9	49.2	23.8				76.2
地域	区部	(700)	18.4	40.6	37.9	3.1			59.0
	市町村部	(300)	18.0	44.3	36.3	1.3			62.3

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。

－自立準備ホーム－

『自立準備ホーム』を「知っている」7.1%、「聞いたことがあるが内容は知らない」22.2%で合計した「認知(計)」は29.3%である。

年代別では、20代の「認知(計)」は2割ちょうどで、他の年代より低い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	7.1	22.2	68.1	2.6			29.3
性別	男性	(500)	6.6	23.2	67.2	3.0			29.8
	女性	(500)	7.6	21.2	69.0	2.2			28.8
年代	20代	(160)	5.6	14.4	73.8	6.3			20.0
	30代	(180)	6.7	25.6	64.4	3.3			32.2
	40代	(200)	9.0	17.5	70.5	3.0			26.5
	50代	(200)	6.5	22.5	70.5	0.5			29.0
	60代	(130)	5.4	29.2	63.1	2.3			34.6
	70代	(130)	9.2	26.9	63.8				36.2
地域	区部	(700)	7.3	20.9	69.0	2.9			28.1
	市町村部	(300)	6.7	25.3	66.0	2.0			32.0

調査結果

Q19 犯罪をした人などの地域社会での立ち直りに重要な役割を果たすのが、地域に密着した民間協力者や、地方公共団体が運営する支援機関です。あなたは、各々の名称を見聞きしたことがありますか。
—地域生活定着支援センター—

『地域生活定着支援センター』を「知っている」7.4%、「聞いたことがあるが内容は知らない」23.9%で合計した「認知(計)」は31.3%である。

年代別では、70代の「認知(計)」は4割を超え、他の年代より高い。

凡例		(n)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知(計)
			知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答			
全体		(1000)	7.4	23.9	67.2	1.5			31.3
性別	男性	(500)	6.4	26.2	65.8	1.6			32.6
	女性	(500)	8.4	21.6	68.6	1.4			30.0
年代	20代	(160)	7.5	17.5	72.5	2.5			25.0
	30代	(180)	11.7	21.7	65.0	1.7			33.3
	40代	(200)	6.5	20.5	71.5	1.5			27.0
	50代	(200)	6.0	24.0	69.0	1.0			30.0
	60代	(130)	4.6	29.2	64.6	1.5			33.8
	70代	(130)	7.7	34.6	56.9	0.8			42.3
地域	区部	(700)	7.6	24.3	66.6	1.6			31.9
	市町村部	(300)	7.0	23.0	68.7	1.3			30.0

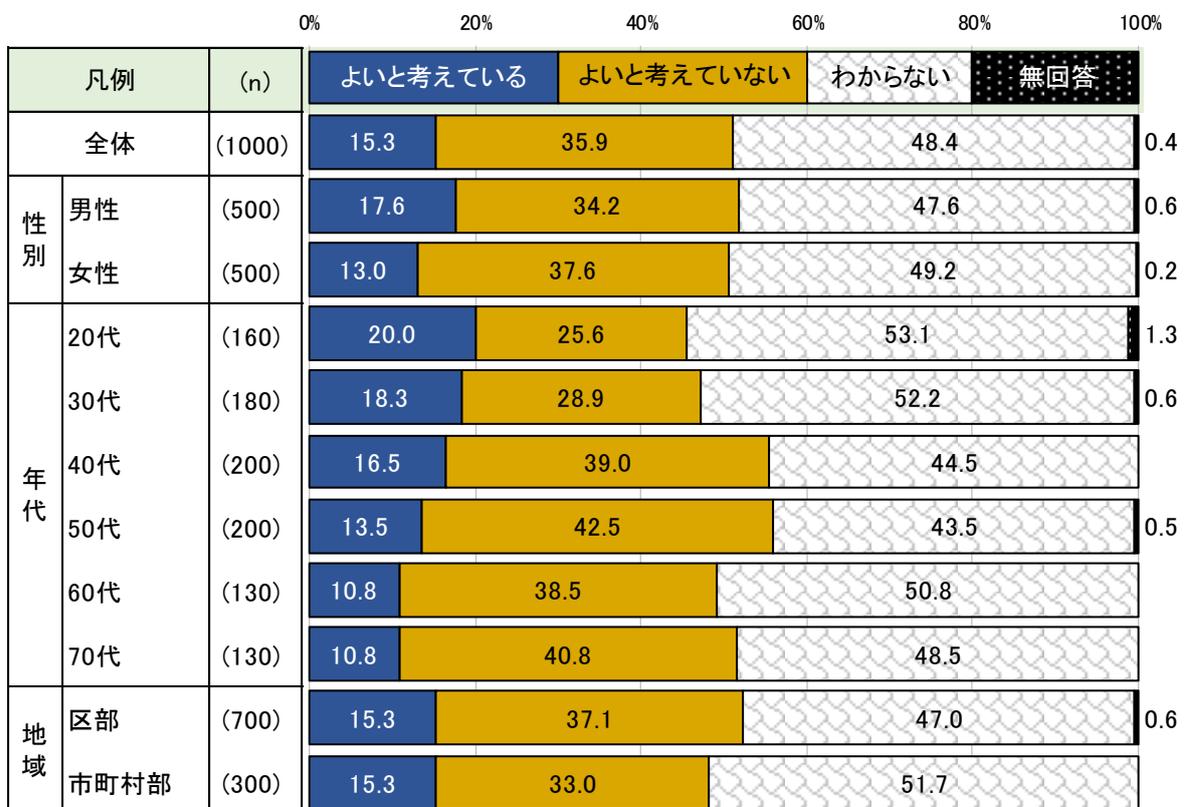
調査結果

6 更生保護(保護司と協力雇用主)

Q20 あなたが保護司となって、更生保護に関わってもよいと考えていますか。考えていませんか。

全体では、「よいと考えている」15.3%、「よいと考えていない」35.9%で更生保護に関わりたくないとする率の方が高い。ただし「わからない」が48.4%と半数近くの人が判断できないという結果であった。

年代別では、年齢の若い方が「よいと考えている」は高い傾向があり、20代ではちょうど2割に達する。

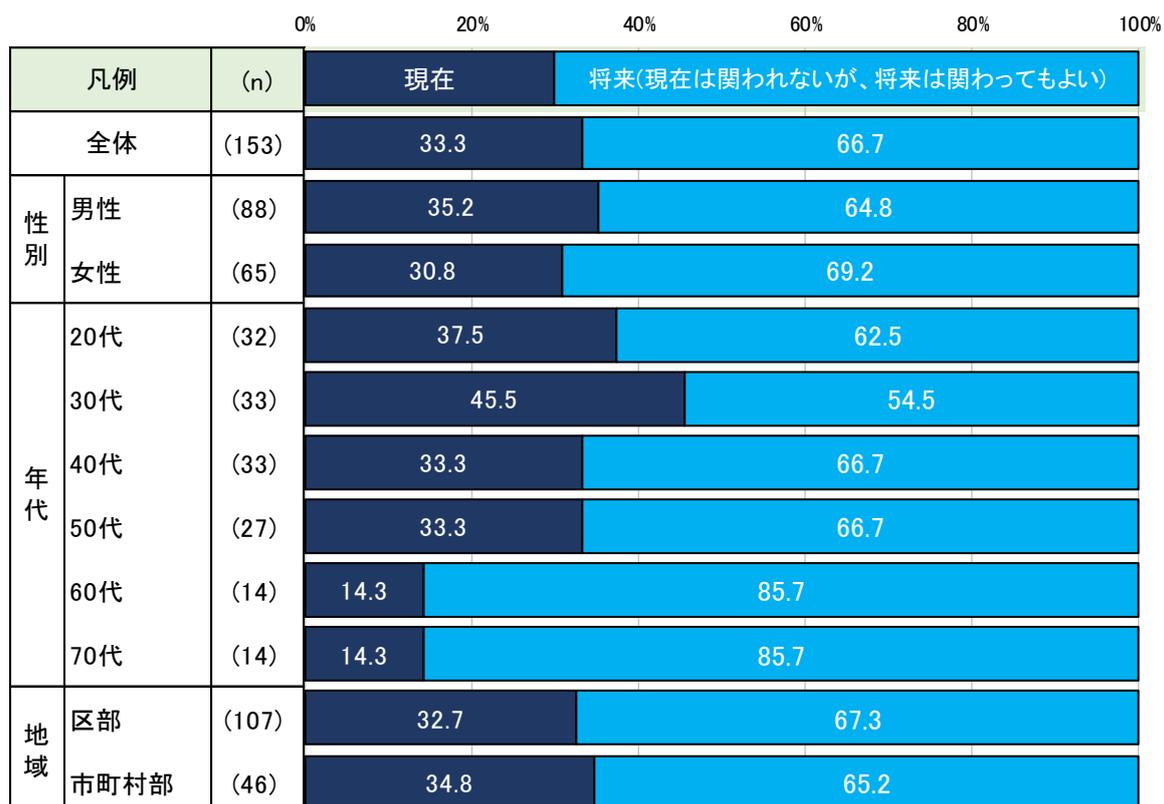


調査結果

Q21 あなたが保護司となって、更生保護に関わってもよいと考えている時期はいつですか。

保護司になってもよいという人(Q20で1と回答)にその時期を質問した結果では、「将来(現在は関われないが、将来は関わってもよい)」が66.7%で「現在」33.3%のほぼ倍であった。

基数(回答者数)が少なく参考程度となるが、60代以降では「将来(現在は関われないが、将来は関わってもよい)」が8割を超える。

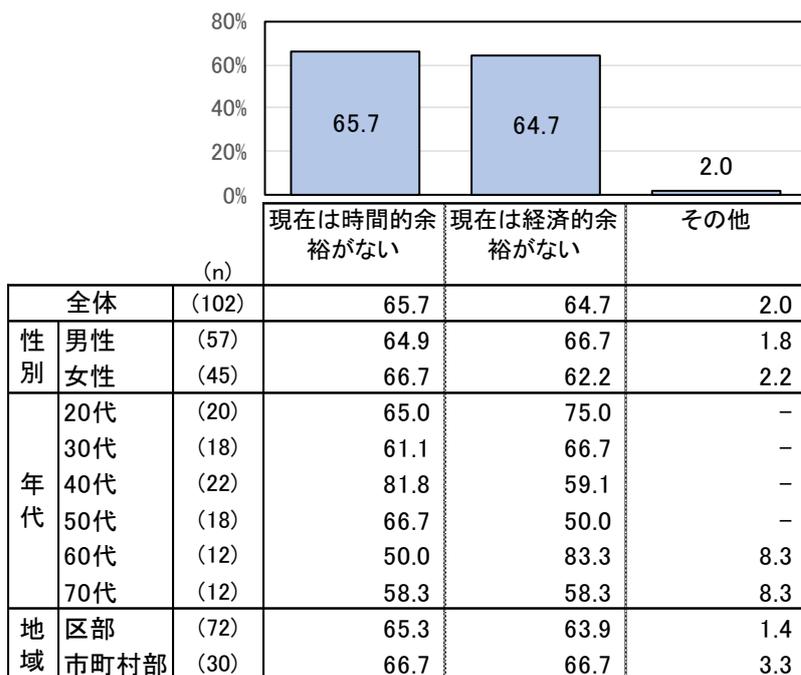


調査結果

Q22 あなたが保護司となって、更生保護に関わってもよいと考えている時期が将来なのは何故ですか。
下記からあてはまるものをすべてお選びください。(回答はいくつでも)

将来なら保護司になってもよい人(Q21で2と回答)の理由では、「現在は時間的余裕がない」65.7%と「現在は経済的余裕がない」64.7%がともに6割半ばで同程度となっている。

基数(回答者数)が少なく参考程度となるが、40代では「現在は時間的余裕がない」が8割を超える。



※全体の高い順

「その他」の内容は、以下の通り。

その他の内容	(n=2)
余裕がない	1 (件)
自分自身が、心身ともに健康かどうか分かりません	1

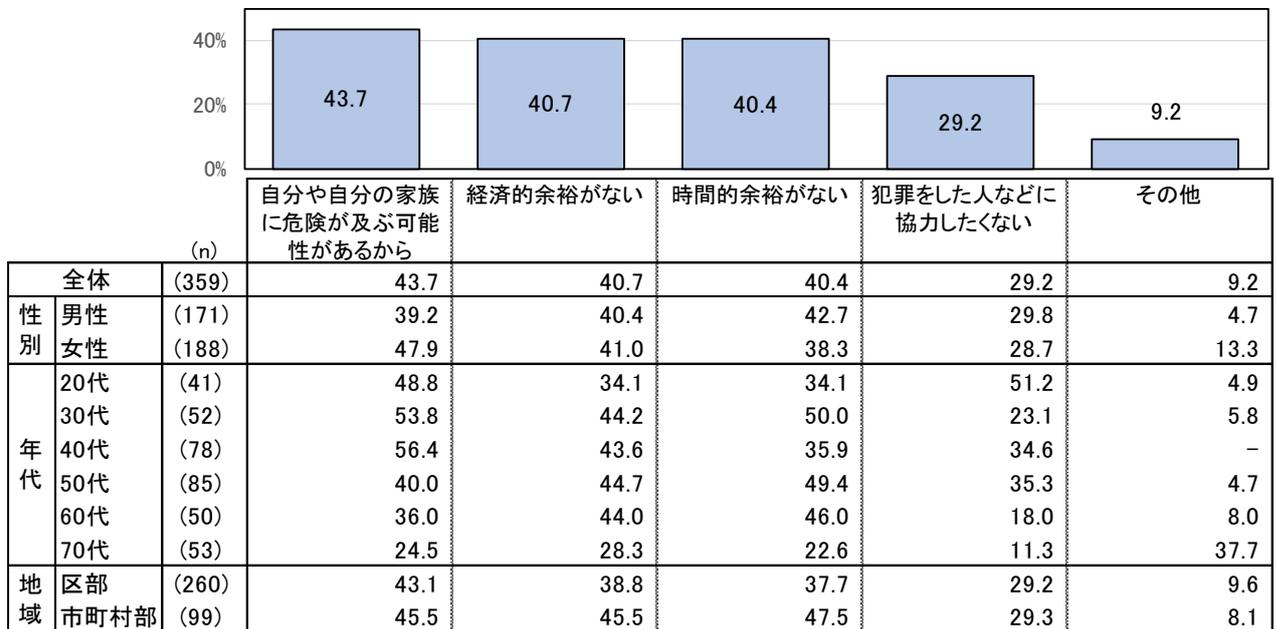
調査結果

Q23 あなたが保護司となって、更生保護に関わってもよいと考えていない理由は何ですか。下記からあてはまるものをすべてお選びください。(回答はいくつでも)

保護司になって更生保護に関わってもよいと考えていない人(Q20で2と回答)の理由では、「自分や自分の家族に危険が及ぶ可能性があるから」43.7%、「経済的余裕がない」40.7%、「時間的余裕がない」40.4%が、同程度で回答されている。

性別では、女性の方が男性より「自分や自分の家族に危険が及ぶ可能性があるから」がやや高い。

年代別では、若いほど「犯罪をした人などに協力したくない」も高くなり、20代では5割を超える。70代では「その他」が4割弱と高い。



※全体の高い順

その他の内容では「高年齢だから/健康でないから」が15件と多い。このほとんどが70代の回答である。次に「自分にはできない/ふさわしくない」が11件と多い。

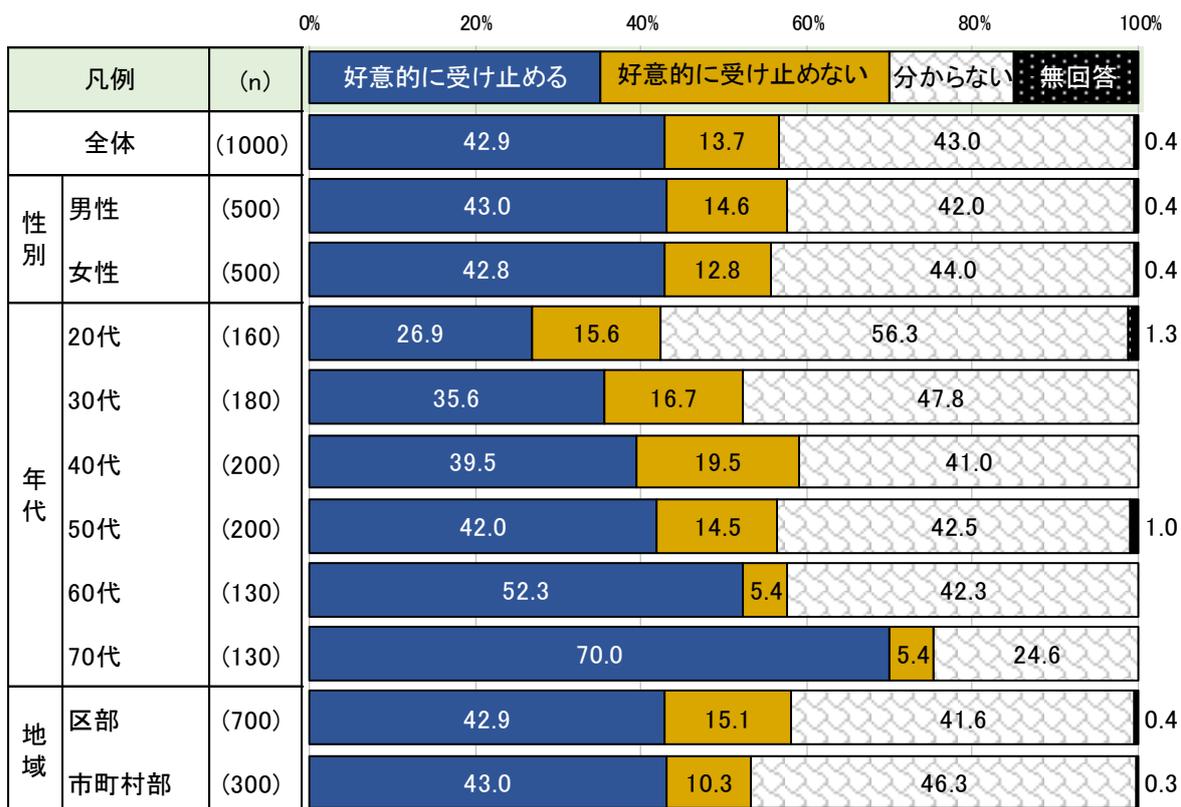
その他の内容	(n=33)
高年齢だから/健康でないから	15 (件)
自分にはできない/ふさわしくない	11
わからない	3
その他	4

調査結果

Q24 あなたは、協力雇用主(犯罪をした人などの自立及び社会復帰に協力することを目的として、犯罪をした人などを雇用する民間の事業主)を好意的に受け止めますか。受け止めませんか。

全体では、「好意的に受け止める」が42.9%、「好意的に受け止めない」が13.7%と、『好意的』は「好意的に受け止めない」の3倍程度となっている。ただし「分からない」が43.0%で「好意的に受け止める」とほぼ同程度となっている。

年代別では、年齢が高いほど、「好意的に受け止める」も高くなり、70代では7割に達する。



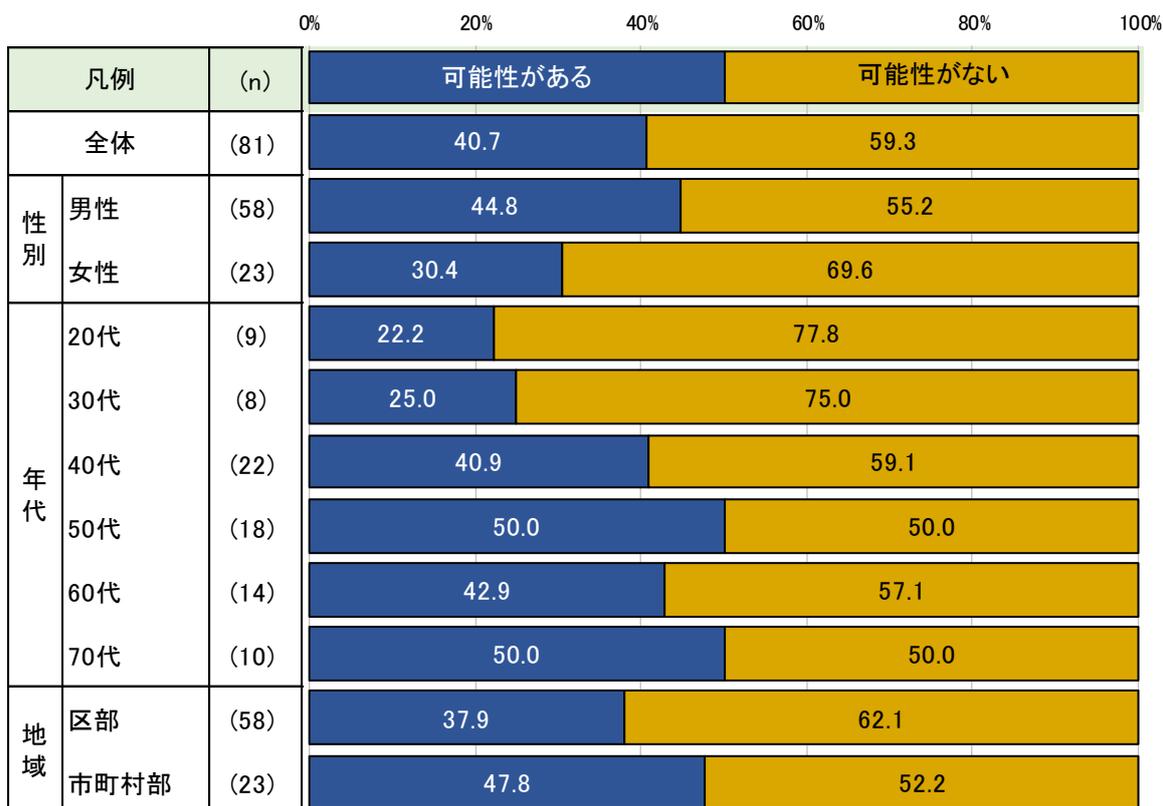
調査結果

Q25 あなたが事業主である場合、本人が更生に向けて努力していることが確認できた場合は、犯罪をした人などを雇用する可能性がありますか。

自営業・自由業(S4で3に回答)全体では、「可能性がある」40.7%、「可能性がない」59.3%と「可能性がない」の方が高い。

性別では、男性の方が女性より「可能性がある」が高い。

基数(回答者数)が少なく参考程度となるが、20~30代では「可能性がある」は2割強と低い。



調査結果

Q26 都内の再犯の防止等の推進について、あなたのご意見を自由にお書きください。(自由回答)

自由回答の結果は、「特になし/わからない/興味なし/無回答」が632件(63.2%)で最も多い。次に何らかの「再犯防止策」についての回答が227件と多い。内容としては「支援/環境整備/教育」に関するものが120件、「厳罰化/監視強化」が73件、「その他(広報活動など)」が45件である。

「難しい問題だ」「怖い/協力は難しい」「(再犯防止の)効果は見込めない」など否定的意見は46件であった。

Q26.自由回答の内容	(n=1000)	100.0%
再犯防止策(計)	227	22.7%
支援/環境整備/教育	120	12.0%
厳罰化/監視強化	73	7.3%
その他	45	4.5%
否定的意見	46	4.6%
その他	116	11.6%
特になし/わからない/興味なし/無回答	632	63.2%

上記の個別項目の具体的な回答は以下の通り。

「支援/環境整備/教育」では、「公的機関による就労支援や住居支援」や「社会全体の受け入れ態勢」など幅広い支援を求める意見が多い。

年代	性別	地域	Q26.再犯防止策－支援/環境整備/教育 120件
70代	男性	区部	個人では限界があるので公的機関での推進を期待。
30代	女性	市町村部	企業だけではなく自分も含め、その地域に暮らす人達の協力が必要であると感じました。
70代	男性	区部	自立した生活が送れるように色々な関係者の協力
70代	男性	区部	対象者の雇用機会を増やすべく、都から事業主に補助金を交付する。
60代	女性	区部	出所者の雇用支援
60代	女性	区部	孤立させたり、差別したりしない地域ぐるみの包括的な取り組みが必要。
70代	女性	市町村部	住む所と仕事を与える事が大切
50代	女性	区部	必要とされていると感じられる暮らし方が必要だと思う
30代	男性	区部	世間が冷めた目で見ないような社会を作っていくための方法を考える
70代	男性	区部	教育が問題

「厳罰化/監視強化」では、特に性犯罪者に対して「厳罰化/監視強化」を求める意見が多い。

年代	性別	地域	Q26.再犯防止策－厳罰化/監視強化 73件
30代	女性	区部	加害者に対して刑罰が甘すぎるから犯罪を軽く見てる人が多いのだと思う。罪を犯した人は死刑にすれば、誰も犯罪なんて起こさないと思う。
40代	女性	区部	罪は罪、再犯とかではなく、したくなるような刑を処した方が良い
30代	女性	区部	性犯罪などは、治らないとして、もっと厳しく監視するべきだと思う。怖い。
20代	男性	区部	罪をもっと重くする。簡単に社会に放たない
40代	男性	市町村部	性犯罪者の再犯は、去勢した方がよい
50代	男性	市町村部	厳罰化
50代	男性	区部	いかなる犯罪に対しても法律を改正し、もう少し厳しく罰する
30代	男性	市町村部	刑務所から出さないこと
50代	女性	市町村部	犯罪の種類による対応の違いがあってもいいと思う。地域により子供が多かったり、お年寄りが多かったりするから
40代	男性	区部	再犯防止策は、犯罪の種類によって軽重をつけた方がよい。麻薬・婦女暴行などの犯罪者にはGPSを取り付け、再犯を抑制すべきだと考える。

「その他」では、「広報活動」を求める意見が多い。

年代	性別	地域	Q26.再犯防止策－その他 45件
30代	女性	区部	もっとメディア【公共放送】で取り上げ、現状を知ってもらうように。
30代	女性	市町村部	当事者や関係者だけでなく、社会全体に情報が伝わり、理解が進むことが大切だと思う。
70代	男性	区部	広報・啓発活動の促進をもっと進める事が必要。
70代	男性	区部	広報活動を拡大して欲しい
30代	女性	区部	担い手が足りていないので、ボランティアだけでなく助成や雇用創出が必要
70代	男性	市町村部	広報活動し、広く理解を知らしめる。
70代	男性	市町村部	再犯発生の原因を調査分析する研究体制を拡充する。

調査結果

「否定的意見」では、「難しい問題」「怖い/かわりを避けたい/ゆとりがない」「効果は見込めない」といった意見があげられている。

年代	性別	地域	Q26.否定的意見 46件
30代	女性	区部	一言で言えないくらい難しい問題
50代	男性	区部	建前は協力だけど本音は怖い
30代	女性	市町村部	再犯に巻き込まれたくないが、自分が犯罪者と関わることは絶対に避けたい。
60代	男性	区部	簡単な問題ではない。
30代	女性	市町村部	推進していても結局は再犯率が高いと思う
40代	女性	区部	私には人を助けるとか出来ないほど自分の事でいっぱいですが、心の余裕がある人なら出来ると思う。
70代	男性	区部	人間に完璧な人はいないが、互いに助け合って生きていくことが必要と思われるが、それを理解していない人が意外と多く思われる。残念ですが、日本の国会で法律を決める人間に真の政治を行う人が少ない事や自分が良ければそれでよいといった政治家が多いたることは否定できないので、再犯防止推進などの対策をしても効果はみこまれない。
70代	男性	区部	犯罪を犯した人の再犯率が高いと聞いている。特に若い人達の罪の意識レベルが低いと思う。薬物に関しては簡単に薬物が手に入るし、自分勝手な考えを持つ人が多く、他人に対する思いやり等も低い。自分さえ良ければ人の事等関係ない等、デジタル社会で人間関係も希薄になって簡単にスマホひとつで犯罪を犯す事が出来るし、本心を云えば巻き込まれたくないということである。よって再犯の防止は難しいと考える

「その他」では、「頑張ってもらいたい/進めてほしい」や「よいこと/重要と思う」という感想が多い。他に「本人の気持ち次第」や「被害者の支援」などがあげられている。

年代	性別	地域	Q26.その他 116件
20代	男性	市町村部	頑張ってもらいたい
50代	男性	市町村部	どんどん進めて欲しい
60代	女性	市町村部	積極的にやってもらいたい
40代	男性	区部	非常に良い
40代	男性	区部	重要だと思う
20代	女性	市町村部	大切だと思う
60代	男性	市町村部	犯罪を犯した人(服役した人など)が本気で更正する気構えがあるかどうか見極めることがポイント。
60代	女性	市町村部	正直言ってよく分からないが、犯罪を犯した人の再犯を減らすことも大切だが、それと同様の金額、労力をもって被害者家族の支援をしてほしい